



エピソード2

守り

酒々井町 森田静子さん
(主婦・飲食店経営)



森田さんが経営されている店内にて

私達が「大先生」と呼んでいるかかりつけ医にお世話になり始めて、もう30年になります。酒々井に移り住んだ当時は子供達が小さかったため、内科・外科・小児科と幅広く診てくださる大先生は本当に有り難い存在でした。風邪などの時はもちろん、息子が自転車タイヤに足を挟んでかかとをザックリ切ってしまった時も、ゴールデンウィーク中だったというのに3日間毎日治療して下さったり、娘がお正月にアイススケート場で転んで骨折した際も、すぐレントゲンを撮って下さったり。主人が魚の骨をのどに刺して痛かった時まで「すぐ来てください」と言ってお下されたことなど、家族の歴史と一緒に思い出は尽きません。

残念ながら主人は平成18年に亡くなったのですが、生前、降圧剤を処方していただいていた主人が不調を訴える、いつも特に心配して下さい、まるで身内のように夜中でも診察して下さいました。

私はというと家族の中でも一番健康だったのですが、おとこの暮れに町の検診で大腸にポリープが見つかり総合病院で手術することに…。手術なんて生まれ初めてで、怖くて怖くていっそ逃げ出してしまいたい。そんな気持ちを大先生に話したところ「僕も胃にポリープができて、取ったことがありますよ」と事も無げに話され、続けて直腸と前立腺のガンも取ったことなど、体験談を話して下さいました。

大先生ご自身も私以上に大変な手術をされていたと思うと、なんだか勇気づけられ、開き直って手術に臨むことができました。私の大腸ポリープは1から2センチのものが4個もあったのですが、幸いにしてどれも良性。お陰様で大事には至りませんでした。

その後も家族で何かとお世話になっており、先日、胃の不調で診察してもらった時は、亡くなった主人の話をしていたらポロポロと涙がこぼれて号泣状態に。慰めて下さる大先生に、改めて一家揃ってお世話になってきたことへのお礼の気持ちを伝えると、大先生は「僕は開業医だからホームランやヒットは狙ってないんですよ」と微笑んでいらつしました。

現在、70歳代になられる大先生は、数年前から息子さんである若先生と一緒に病院を続けておられます。私達一家のバツクに常に控え、守り続けて下さった大先生と、その後を引き継いでおられる若先生には、これからもこの町で末永く活躍していただきたいと願っています。

患者さんとお医者さんの ひとこまストーリー募集!

「こんな一言で勇気が出た」「不安な気持ちが安らいだ」など、体験エピソードなどをお寄せください。本誌に掲載させていただきました方には、図書カードをプレゼントいたします。また「文章は苦手」という方は、編集部が取材にまいりますので、下記までご連絡ください。

- ◆投稿先: 〒260-0026 千葉市中央区千葉港 7-1 社団法人 千葉県医師会 広報課「ミレニアム」係 / Eメール kouhou@office-cma.or.jp
- ◆文字数: 1,100 文字以内 (投稿用紙の様式は問いません) ◆プレゼント: 本誌掲載された方 図書カード